JAFスポーツWEB

2020年JAF北海道ラリー選手権第1戦　2020年JMRC北海道MARUIラリーシリーズ第1戦
TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge 2020 joint cup 北海道シリーズ第1戦
2020年北海道スノーチャレンジカップ第2戦　34th EZO ENDLESS RALLY［JAF公認No.2020-8002］

開催日：1月19日　開催場所：北海道　格式：国内　主催：EZO［クラブ登録No.加盟01086］

フォト／加藤和由、JAFスポーツ編集部　レポート／JAFスポーツ編集部

RA-1クラスはファーストゼッケンの山田健一／竹下紀子組が貫禄勝ちを見せた。

北海道雪の開幕戦は山田健一WRXが全SS制覇！

2020年の北海道モータースポーツ界の幕開けを告げるJAF北海道ラリー選手権の初戦が、1月19日、開催された。

ここ数年、北海道地区では、千歳市の新千歳モーターランドを拠点とするスノーラリーをまず2戦行うというスタイルが定着している。新千歳のダートトライアルコースで数パターンのSSを設定する形を基本としてきたが、昨年からジムカーナコースのスノートライアルSSと、林道SSをMIXした形が採られている。

今年はジムカーナコースに加え、パドックを挟んだ反対側のフラットダートの広場にもSSを設定した。暖冬ではあるが、新千歳モーターランドは人工降雪機を導入。しっかりと圧雪されたコースを用意した。一方、林道は昨年も使われた約2kmのSSが設定された。かなりの高速設定だが、道幅はそれほど広くない。こちらは降雪機を使うわけには行かず、2本めの走行時は地の路面が顔を出すかもしれない。

ラリーはまずジムカーナコースの「Shin Chitose A」と新設定の「Shin Chitose B」をサービスを挟んで2回走った後に林道SS「Uemae Kita」へ。一旦、新千歳に戻り、「Shin Chitose B」の3本めとなるSS6をアタックした後に、再び「Uemae Kita」に挑んでゴールという設定だ。計7本のSSの総距離は8.72kmだ。

RA-1クラスは優勝候補筆頭の山田健一／竹下紀子組WRXが、全SSベストで上がって快勝を飾った。人工降雪のSSについては「滑る所とグリップする所があって難しかった」と山田選手。「特にダートが下地のSSは、滑らせていったら、いきなりタイヤが喰って姿勢が変わったりして見極めができなかった。普通の雪とはちょっと違いますね」。

「林道SSについては、思ったより雪がなかったので、タイヤが効く所は効くんですけど、思い切っては攻められませんでした。ただ雪が融けて砂利になった所でも心が痛まない程度のタイヤで走ったので(笑)、その意味では心置きなく走れました」。今年の照準は、地元の北海道で開催されるJMRCオールスターラリー。「前回の地元開催ではリタイヤしてしまったので、忘れ物を取りに行きたいと思います」ときっぱり答え

1. Jr.RA-1クラスではインプレッサを駆った藤原稜／藤原わかな組が優勝。2. RA-4クラスは乙供邦彦／中村朝子組アクアが優勝した。

3. RA-2で3位の島田勝正／北原寛典組。**4.** 俣野実／伊勢谷巧組はRA-1で3位。**5.** 岡直貴／仲田治夫組はRA-3で3位入賞。**6.** RA-3で4位の長尾鋼也／坂井理崇組はベスト2本を奪取。**7.** 最終SSまでもつれたRA-3クラスの優勝争いは松倉拓郎／猿川仁組がベストを奪って決着。**8.** RA-1で2位入賞の近藤拓／松本真直組。**9.** RA-3で2位入賞の三木晴夫／河村幸子組。**10.** 序盤、先行した谷岡一幸／吉川高利組だったが、RA-2で2位。**11.** RA-1で4位の金藤公人／宇野祐哉組。**12.** 阿部敬珠／阿部祥吾組はRA-3で5位。**13.** 泉祐悟／小池征寛組はRA-3で6位。**14.** 本州から遠征の藤田幸弘／藤田彩子組はRA-3で7位。**15.** RA-3で8位のニツ川啓輔／大日方唯子組。**16.** ヴィッツレーサーのみなぴよ／武平良介組はRA-3で9位。**17.** CL-4WDで優勝の伊藤貴弘／菊地紀秋組。**18.** CL-2WD優勝は渡部康太／渡部麗組。**19.** 3年ぶり復帰初戦ながらアルトマイスターの速さは健在。RA-2優勝の佐藤秀輝／松井浩三組。**20.** RA-3クラス表彰の各選手。**21.** RA-1クラス表彰の各選手。

てくれた。

9台が参加して最大の激戦区となったRA-3クラスはホットバトルが展開された。林道SSを前にしたSS4終了時にトップに立っていたのは本命の松倉拓郎／猿川仁組。しかしここまで2本のベストを奪った長尾鋼也／坂井理崇組が0.1秒差で追い、さらに1.1秒遅れで三木晴夫／河村幸子組がつけるというオーダーだ。

だが林道1本めのSS5で長尾組は大きく遅れてポジションダウン。代わってSS5、SS6と松倉組を凌いだ三木組が最終のSS7を前に0.2秒差にまで追い上げた。しかしSS7は渾身の走りを見せた松倉組がこの日、最初にして最後のベストをマーク。3.7秒差で三木組を振り切った。

「最後の林道は危なかったです(笑)。落ちるような道じゃないんですけど、すぐ横に木が立っているので、姿勢向けて行こうとすると、度胸がいる道でした。S字が続く区間も結構、路面に裏切られるので、喰わない所はイン舐めながら走りました」と松倉選手。

同じく勝負に出た三木選手は「最終SSは結構はみ出しちゃって、凍った泥で足もぶつけてしまいました。あの道は去年、逆走で走った時は全部、ベスト取れたんですが、この方向はやられたんですよ。でも今日は新千歳の2本めをもうちょっと何とかしたかったな」とラリーを振り返った。

ヴィヴィオ、アルト、コルトが三つ巴を展開したRA-2クラスは、尻上がりに調子を上げた佐藤秀輝／松井浩三組アルトが、谷岡一幸／吉川高利組ヴィヴィオを逆転して幸先の良い1勝をあげた。3年ぶり復帰の初戦を制した佐藤選手は「勝因は勘が戻ってきたことです」と笑顔でひとこと。「林道は初めて走りましたが、100km/hくらいで入った高速コーナーでアウトにはらんで危なかったです。新千歳も走る度にグリップが違うので見極めが難しかったですね」

数年前まで熾烈なK CARバトルを演じた相棒が復帰してきた谷岡選手は、「久しぶりに一緒に走れて楽しかったです。敗因は油断したことです(笑)。でも、最後の林道SSはベスト取れたんで、とりあえずは良しとします」と次戦にリベンジを誓っていた。

当日の参加者の皆さん。